

福祉作文コンクール入選者

\*印は、神奈川県福祉作文コンクールへ提出する

(敬称略)

1 小学生の部

小栗 行真	おばあちゃんの願い	(開成小 4年/優秀賞/社協会長賞)*
井上 心結	一粒のしずく	(開成南小 6年/優秀賞/共同募金支会長賞)*
小野紗陽香	小さな気づきから生まれる物	(開成南小 6年/優秀賞/教育長賞)*
藤井 拓真	しょうがい者と電車と駅	(開成小 4年/優良賞)*
高杉 蒼空	福祉を体験してみた	(開成小 6年/優良賞)*
大谷みづき	パラスポーツと出会って	(開成南小 5年/佳作)
赤瀬 美凜	幸せな世の中になるために…	(開成南小 4年/佳作)
井戸 勇心	いつかまた…	(開成小 5年/佳作)
櫻井 絢梧	ぼくのおばあちゃん	(開成小 4年/佳作)
國米琥太郎	ぼくにできるユニバーサルデザイン	(開成小 6年/佳作)

2 中学生の部

遠藤 有紀	ボランティア活動を通して	(文命中 3年/優秀賞/社協会長賞)*
梶谷 美結	祖父の自主返納	(文命中 3年/優秀賞/共同募金支会長賞)*
伊原 彩花	みんなでたすけあう社会に向けて	(文命中 3年/優秀賞/教育長賞)
大野朱々風	すべての人へ	(文命中 3年/優良賞)
植松 凜	大切な人達	(文命中 3年/優良賞)
山口 未夢	手話と出会って	(文命中 3年/佳作)
海野 愛美	思いやりの意識を	(文命中 3年/佳作)
小見山碧衣	「双子」の大変さ	(文命中 3年/佳作)
栗原 璃音	ヘルプマークの認知度を上げるために	(文命中 3年/佳作)
鮫島 里菜	挨拶から始める「幸せ共有」	(文命中 3年/佳作)

(高橋)

緊急事態宣言解除後の地域福祉活動再開へ向けて

新型コロナウイルス感染症の拡大により、  
これまで取り組まれてきた地域福祉活動の多くが休止を余儀なくされました。  
また、感染対策を講じて再開されているところでは、活動方法の変更など、  
迷いや不安を抱えながら手探りで活動されています。  
こんな時だからこそ、誰かとつながり、互いを気にかけて、支え合いたい…  
地域の皆さん一人ひとりの温かい心の輪が広がるよう、  
「今できること」を少しずつすすめていきませんか？

1 担い手どうして話し合しましょう！

住民の皆さんによる福祉活動やボランティア活動の再開にあたって、それに取り組む団体の担い手どうしが感染予防を徹底し、少人数で集まったり、Web会議などを活用して話し合いを行いましょう。なかには、感染症により活動再開を躊躇されたり、長い自粛生

活のなかで活動意欲を失いかけていたりしている方もおられます。住民の皆さんによる福祉活動は元来自動的・主体的なもので、無理強い禁物です。感染症の影響が長期化するなかで、一人ひとりが無理をせず今できることは何かを考えましょう。

2 感染防止について担い手自身正しい知識を身につけましょう！

使命感や情熱だけで感染症に立ち向かうことはできません。福祉活動やボランティア活動に取り組まれる担い手一人ひとり、感染症の地域における流行状況や感染防止の方法など、正しい知識を身につけ拡大防止に取り組みましょう。



3 福祉活動の再開方法を検討しましょう！

感染症拡大防止に配慮して福祉活動やボランティア活動を再開・実施される場合、①「3つの密」(密集・密接・密閉)を避ける、マスクの着用、手洗い・手指消毒などの基本的な感染防止対策を導入し、感染及び感染拡大のリスクを可能な限り低減して実施する、②必要に応じて電話・手紙・メールなどを活用するなど、活動方法を見直し実施しましょう！